

愛知県美術館では、毎年、作品のジャンルごとに「棚卸し」をしています。美術館で「棚卸し」？と思われるかもしれませんが、つまり在庫調査、作品が美術館内にきちんと保管されているかどうかを確認することなのです。愛知県美術館の所蔵作品約7000点ある中で、現在では洋画、日本画、彫刻、水彩・素描・版画などのジャンルに分けて行っています。

所蔵作品は、収蔵庫で大きく絵画、彫刻の部屋に分けて保管しています。棚卸しでは、収蔵庫内で作品所在を確認し、作品ごとの帳票に確認場所を記載していく作業を行います。作品は、通常、絵画用ラックや棚に五十音順に整理してあります。例えば、今年調査を行った水彩・素描・版画作品では、多くの作品を箱に入れて保管しています。それら作品を箱の中に収める際には、ウコン袋、通称黄袋“きぶくろ”というウコンで染められた黄色の袋に作品を入れています。防虫効果があることからウコンで染められているのです。また、水彩・素描・版画作品は点数が多いため、すべての作品を額に収めているわけではなく、マットと呼ばれる二枚重ねの厚紙、つまり紙の額縁のようなものに挟んで、引き出しに重ねてしまっている作品もあります。



△黄袋に入れられた版画作品



#### △引き出しの中 マットにはさみ重ねた版画作品

このように水彩・素描・版画の作品は、黄袋と箱、また引き出しの中と保管されているため、収蔵庫の中でも容易に目にするのではなく、棚卸しはこれら作品を実見する貴重な機会なのです。作品をチェックしていく過程で、この作品はこんなにきれいな色をしていたのかとか、意外と大きかったなど、これまで見過ごしていた作品の魅力に触れることとなり、作品を鑑賞するときとは異なる、作品を発掘したかのような心躍らされる瞬間を楽しむことができます。このように、棚卸しはあらためて作品に出会う機会となり、さらには皆様に展示でご紹介する作品候補を選定することにもつながります。作品すべてを確認する作業は大変ですが、細かく収納方法もチェックしながら棚卸しを行っているので、作品の保存上でも重要な作業なのです。

棚卸しは年に一度程度ですが、作品管理には日々の仕事の積み重ねも重要です。愛知県美術館の財産である作品を常日頃きちんと管理し、展示を通して皆様に新たな作品の魅力をご紹介していきたいと思っています。

(m. f.)